

II. 事業の概要

法人本部

1. 理事会、評議員会の開催状況

- (1) 理事会開催回数 6回 令和2年(2020年)3月～令和3年(2021年)年5月
(2) 評議員会開催回数 6回 令和2年(2020年)3月～令和3年(2021年)年5月

2. 監事による監査状況

- (1) 監事 矢野 範子 氏、 島岡 雅之 氏

(2) 監査状況

理事会等に出席する他、関係書類閲覧等及び期中・期末監査を実施

〔会計監査〕 期中、期末

会計監査人(独立監査人)との連携協議含む

〔業務監査〕 期中、期末

理事長及び法人本部長等との面談による現況聴取及び法人が設置する学校現場での実地監査を実施(ユマニテク短期大学、名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校、名古屋ユマニテク調理製菓専門学校の事務局長・事務長等からの面談による現況聴取、協議、校舎内視察等)

〔監査報告書提出〕 令和3年5月20日

3. 私立学校振興助成法に基づく会計監査人(独立監査人)による監査状況

- (1) 監査契約 受嘱者 公認会計士 佐久間紀事務所 公認会計士 佐久間 紀 氏
公認会計士 片山茂則事務所内 公認会計士 久留美 輝晃 氏
(2) 上記委託審査担当員 公認会計士 伊藤 堯夫 氏
(3) 監査報告書提出時期 令和3年6月
(4) 監事との連携 期中、期末

4. 重要事項等

(1) ユマニテク短期大学

平成29年4月に開学したユマニテク短期大学は平成30年度に完成年度を迎えた後も、文部科学省による「設置計画履行状況等調査」及び「大学等設置に係る寄附行為(変更)認可後の財務状況及び施設等整備状況調査における意見に係る報告書」の提出を求められ、文書にて前述の調査を提出しました。その結果は令和3年3月26日に本学へ通知(文部科学省のホームページにも掲載)され、教員の整備に関する指摘や入学定員未充足の改善など、5項目の指摘事項が付されましたので、引き続き改善に向けて取り組んでまいります。

(2) 県知事所轄の専修学校（名古屋ユマニテク調理製菓専門学校、名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校）

平成31年4月に改編した専修学校においては、名古屋ユマニテク調理製菓専門学校の調理師専科で完成年度を、名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校の歯科衛生学科で定員増の2年目を迎えました。調理師専科では、初めての卒業生を13名輩出し、全員に調理師と製菓衛生師の資格を取得させることができました。令和3年度は入学者数も増加しますが、入学者全員が資格を持って卒業できるように教育活動の充実を図ります。また、歯科衛生学科では、1・2年生が3クラス編成となり、在籍者数が増加し、施設の稼働方法に工夫が必要になってきています。新型コロナウイルスへの対応も踏まえ、なるべく密を避けるよう努力しています。令和3年度は完成年度を迎えますので、より多くの歯科衛生士を地域社会に送り出せるよう教育活動に専念して参ります。

また、専修学校改編後の順調な学生募集を背景に、名古屋地区に新規事業計画を立案中です。その実行に不可欠な新校舎建築用地の候補地が現校舎の近隣に見つかりましたので、令和3年3月に売買契約を締結しました。今後、現設置校の設置学科の拡充を中心に事業計画の協議を進めて参ります。

上記、名古屋2校の改編に伴う校舎や施設設備の整備に関しては、平成30年度に概ね改修工事が完了しておりますが、学年更新での学生数増員に対応するための備品の追加や、ネットワーク設備の整備を令和2年度に実施しました。

名古屋ユマニテク調理製菓専門学校

校長 星野 正純

事業報告にあたって

2019年4月、名古屋ユマニテク調理製菓専門学校と校名変更して再スタートを切った本校は、専門課程（調理師専科、製菓製パン本科）と高等課程（総合学科）の2課程を設置し、新しい組織の中でのスタートを切り2年が過ぎようとしている。専門課程においては、強豪校の多いこの地区において東校舎・西校舎の2校舎に分かれての募集にかかわらず、製菓製パン本科は定員を充足でき、調理師専科についても、昨年度から大きく伸び、30名を超える入学生を確保することができた。高等課程においても、愛知県下15歳人口減少の中に高等専修学校が26校とひしめく中、男女共学、校名が調理製菓でありながら、総合学科での募集とやや難易度の高い環境ではあったが、総合学科の利点を中学生や保護者に強くアピールすることにより、定員を大きく上回ることができた。これも年度はじめに両課程の教職員を一同に集め、学校方針の周知、各自の自己目標を掲げることにより、各自の意識を持たせ事にあたることにした。何とか基礎固めはこの2年間である程度は形となってきたと思われる。このまま一丸となって前進することによってより強健な組織を作っていきたい。

I. 基本方針について

1. 教育方針

<高等課程 総合学科>

高等課程においては、専門課程・高等課程一体となった5か年教育、私立の高専を目指し、本校において生徒や保護者に安心感を与えることを第一義として、中学校・保護者・生徒にアピールする。それによって生徒や保護者から信頼される教育体制を構築させる。

専門課程においては、人間教育や技術の習得はもとより、国家資格の習得、就職先の確保という本来の姿を確立させる。

<専門課程 調理師専科>

社会に貢献できる人間性や技術、知識を身につける。

<専門課程 製菓製パン本科>

学生の現状と課題をふまえ、学校力（教職員が一丸となり、学生を指導支援する）、教師力（専門性を発揮し、分かる・身につく授業をする）、人間力（学生の豊かな人間性と社会性を養う）の3つの力により、学生の自己実現と自立を目指す。

2. 教育目的

<高等課程 総合学科>

『ユマニテク』と命名された学校名そのままに「豊かな人間性と確かな技術」という教育理念そのままに専門職業人の育成を目指す。教育方針及び教育特色をしっかりと理解した上で、本校で自分の『夢（将来の目標）』を見つけて、それに近づこうと努力する強い意志と意欲を養う。

人物像としては、

○さわやかな笑顔、大きな声、きれいな姿勢

○相手の気持ちがわかり、家庭の愛を感じることでできる人材

<専門課程 調理師専科>

- (1) 基礎技術の鍛錬と幅広い知識の習得を目指す。
- (2) 作ることの楽しさや食して頂くことの喜びから、調理製菓のやり甲斐を伝える。
- (3) 調理製菓に対する姿勢を身につけさせ、現場に臨む心構えを持たせる。

<専門課程 製菓製パン本科>

「豊かな人間性と確かな技術」を兼ね備えた専門職業人（パティシエ、ブーランジェ、和菓子職人、カフェ店員等）を養成することを目的とする。

3. 主な教育・研究の概要

<高等課程 総合学科>

(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー／求める人物像）

教育方針及び教育特色をしっかりと理解した上で、その特色を活かし自分の『夢（将来の目標）』を探究し、その実現に近づこうと努力する強い意志と意欲を持たせると共に、同じ目的を共有する仲間と強調した学校生活を送ることのできる人物を育成する。

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

総合学科として、基礎的学力の習得に必要な「一般教養領域」、豊かな感性と表現力を有した人間形成を促すための「人間形成領域」、社会的生活能力の基礎を身につけるための「総合教養領域」、自分の夢（目標）の実現に役立てるための「専門教養領域」の4つの柱をカリキュラム上にバランスよく編成し、各領域ごとに適切な教員、教材、授業内容、評価を配置する。

(3) 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

- ・本校教育方針に沿って、3年間を通じ自分の「夢」の探究と実現に努力を惜しまなかったこと。
- ・本校の定めるすべての授業科目に対し、規定に定まる出席率を満たしていること。
- ・本校の定めるすべての授業科目の成績評価が認定の要件を満たしていること。

<専門課程 調理師専科>

(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー／求める人物像）

- ① 本校の教育方針や教育内容を理解し、本校で学びたいという気持ちを持っている者。
- ② 学科の特性や目指す職業について探究し、学習の目的や意義が明確である者。
- ③ 目標達成の為に粘り強く努力し、最後までやり遂げようとする意志のある者。
- ④ 卒業後の進路や将来の目標についての考えを持ち、社会に貢献する意欲のある者。

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

調理師法施行規則に基づき、体系的に学修できるよう講義、実習科目を配置する。

調理師専科においては、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、企業等と連携し、実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行う。

授業計画書（シラバス）については、授業概要、授業終了時の到達目標、毎回の授業テーマなどを記載しており、入学年度に学生に配付し積極的に活用するように指示している。

(3) 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

カリキュラムポリシーに沿って設定した全ての科目を修得し、学則及び卒業判定規程にある下記の卒業要件を満たしたものに専門士を授与する。

- ・調理業務を行うにふさわしい知識、技術及び人格を備えていること。
- ・本校の定める全ての授業科目、及び実習の出席率を満たしていること。
- ・授業料等学納金が完納されていること。
- ・成績評価が認定要件を満たしていること。

<専門課程 製菓製パン本科>

(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー／求める人物像）

専門技術と知識を学び、社会性を身に付けていきたいと考える人。

「豊かな人間性」と「確かな技術」を身に付けるための基礎として、意欲や適性、将来の目標等を重視する。これらを捉えるために、選考における評価基準の主なものを以下にあげる。

- ① 本校の教育方針や教育内容を理解し、本校で学びたい気持ちがあるか。
- ② 希望学科に関係する職業を理解し、入学目的・身に付けたいことが明確であるか。
- ③ 目標達成のために、粘り強く努力し、やり遂げる気持ちがあるか。
- ④ 卒業後の進路、将来について考えているか。

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

製菓衛生師法施行規則に基づき、体系的に学修できるよう講義、実習科目を配置する。

製菓製パン本科においては「職業実践専門課程」の認定を受けており、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、企業等と連携し、実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行う。

授業計画書（シラバス）については、授業概要、授業終了時の到達目標、毎回の授業テーマなどを記載しており、入学年度に学生に配付し、積極的に活用するように指示している。

(3) 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

カリキュラムポリシーに沿って設定した全ての科目を修得し、学則及び卒業判定規程にある下記の卒業要件を満たしたものに専門士を授与する。

- ・製菓業務を行うにふさわしい知識、技術及び人格を備えていること。
- ・本校の定める全ての授業科目、及び実習の出席率を満たしていること。
- ・授業料等学納金が完納されていること。
- ・成績評価が認定要件を満たしていること。

4. 教職員の行動指針

<高等課程 総合学科>

- ①私学人としての意識を持ち、全教職員が一丸となり一人ひとりの努力で学校を運営するという意識・共通理解のもと、教職員相互の信頼と敬愛に基づく協同体制を万全のものとして、生き生きとした学校づくりに努める。また、教職員一人ひとりの行動、発言が学校の代表者という意識を強く持ち、責任ある行動や自己研鑽に努める。

- ②生徒ファーストのもと、感情に流されず生徒と共に伴走し、伸びようとする気持ちと愛情を持って指導にあたる。
- ③保護者や地域との連携を密にすることで、学校への不安を緩和し、学校への願いや要望を把握する。
- ④教職員は教育方針を理解し、授業計画や事務管理のみならず、教職員全員での学生生徒指導や募集活動まで幅広く物事にあたる。

< 専門課程 調理師専科 >

- ①全教職員が学校運営に対し共通認識の下、各自の業務に取り組む。
- ②教員は授業計画を入念に行い、興味深い魅力のある授業展開を心掛ける。
- ③職員は教育方針を理解し、事務管理のみならず学生指導・学生募集にあたる。
- ④教職員は組織の拡張を視野に置き、あらゆる面で個々の資質向上に努める。

< 専門課程 製菓製パン本科 >

- ①各々が教員として、また分野の技術知識人としての資質向上を目指し、協調性をもった職務を遂行する
- ②学科の教育指針を基に、教員が共通の目的のもと指導に取り組む
- ③学科の教育指針を学生便覧に掲載し、本学科の教育姿勢を学生へ浸透させる
- ④教員の平均年齢の若さを優位点と捉え、学生の心と密に関わる

II. 令和2年度 事業報告

1. 学校運営と教育活動の取り組み

(1) 設置学科の概要

学科名	学年	学級数	定員	5/1 時点 学生数	3/31 時点 学生数	備考
総合学科	1 年	2	80 人	68 人	64 人	
	2 年	2	80 人	58 人	54 人	
	3 年	2	80 人	51 人	50 人	
	合計	6	240 人	177 人	168 人	
調理師専科	1 年	1	40 人	13 人	12 人	
	2 年	1	40 人	13 人	13 人	
	合計	2	80 人	26 人	25 人	
製菓製パン本科	1 年	2	80 人	84 人	80 人	
	2 年	2	80 人	71 人	71 人	
	合計	4	160 人	155 人	151 人	
合計		12	480 人	358 人	344 人	

(2) 令和2年度卒業生の状況

令和3年3月31日現在

学科名	卒業生	進学	就職	専門分野就業者予定	備考
総合学科	50人	32名	18名	総合学科のため未分類	※就職は非正規雇用を含む
合計	50人	32名	18名		

※高等課程は国家試験受験が発生しないため、「進学・就職」の項目を加えている。

学科名	卒業生	国家試験合格者	専門分野就業者予定	備考
調理師専科	13人	13人 (100%)	13人 (100%)	
製菓製パン本科	71人	71人 (100%)	63人 (89%)	分野外へ4名就職
合計	134人	84人 (100%)	76人 (90%)	

(3) 教育活動の実施状況

<高等課程 総合学科>

・資格取得、検定試験合格等の実績

〔授業内で全員が受験するもの〕(在籍者の取得率で集計)

【日本語ワープロ検定3級】41名合格(1年生66名中) 取得率 62.1%

【日本語ワープロ検定準2級】20名合格(3年生50名中) 取得率 40.0%

【情報処理技能検定3級】19名合格(2年生57名中) 取得率 33.3%

【被服製作技術検定4級】39名合格(2年生58名中) 取得率 67.2%

【食物調理技術検定4級】41名合格(2年生58名中) 取得率 70.7%

【保育技術検定4級】43名合格(3年生50名中) 取得率 86.0%

【硬筆書写検定4級】56名合格(1年生67名中) 取得率 82.4%

〔課外講座で任意に受講・受験するもの〕(受験者の合格率で集計)

【日本語ワープロ検定2級】11名合格(受験者13名) 合格率 84.6%

【日本語ワープロ検定準2級】1名不合格(受験者1名) 合格率 0%

【日本語ワープロ検定3級】2名合格(受験者2名) 合格率 100%

【情報処理技能検定準2級】7名合格(受験者9名) 合格率 77.8%

【色彩能力検定3級】9名合格(受験者26名) 合格率 34.6%

【被服製作技術検定3級】9名合格(受験者12名) 合格率 75.0%

【食物調理技術検定3級】19名合格(受験者21名) 合格率 90.5%

【保育技術検定3級】9名合格(受験者10名) 合格率 90.0%

【秘書検定3級】5名合格(受験者26名) 合格率 19.2%

【漢字検定3級】3名合格(受験者15名) 合格率 20.0%

【硬筆書写検定2・3級】(申込者が規定人数に充たず開講せず)

【介護職員初任者研修】(感染症対策の観点から開講せず)

※課外講座において合格率が低い講座に関しては、受講前のガイダンスにおける講座内容の理解度の不足や、講座の指導方法等について検討・改善が課題である。需要を優先し難易度に関わらず続行するもの、本校生徒の適性・能力を優先し改編を要するものの峻別が必要と考えている。

・キャリア教育への取組状況

【関連実施行事】

- 6月5日(金) 進路説明会〔3年〕
- 7月3日(金) 進学・就職ガイダンス(ウインクあいち)〔2年生〕
- 7月9～17日 進路懇談会〔3年〕
- 7月14日(火) 校内進学展(ブース形式学内5校、学外8校参加)〔全学年〕
- 10月30日(金) キャリア講座〔2年〕
- 11月6日(金) キャリア講座〔1年〕
- 11月17日(火) 学内進学・進学資金説明会〔1・2年〕
- 1月15日(金) 校外進学展〔2年〕
- 3月2日(火) ハローワークセミナー〔2年〕

※レディネス検査、YG性格検査などを学級単位で実施後、個別面談を実施〔全学年〕

【取り組みの概要】

- ・上記行事を通じて3年生のみならず、1年生からの早期のキャリアガイダンスの実施に近年は努めている。こうした取り組みを通じて全生徒への職業意識の形成、進学における資金なども含めた早期の準備開始、学内進学意欲の向上等を促し、希望進路の実現を図っている。
- ・日頃の学習内容とキャリア教育の効果的な連結を研究中である。本年度はカリキュラム上実施しているすべての授業に対し、常勤教員、外部講師の別なく、「人間関係・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4項目の中から、自身の担当科目がどの項目の能力の向上に貢献するか検証してもらい、今後の授業のあり方を点検してもらった。今後はこの作業をさらに進捗させ、すべての授業においてキャリア教育の観点を取り込んだシラバスの作成に発展させる予定である。
- ・実習・実技等の取組状況
 - ・当初実施授業数の確保が懸念されたが、年間行事予定の柔軟な再構築により、実習時間を確保し、最終的には大きく年間指導計画内容の変更、縮小をすることなく実施することができた。
- ・学校行事への取組状況 (○=教育活動領域、△=保護者連携領域、□=広報活動領域)

【4月】緊急事態宣言発出に伴う臨時休校期間(～5月24日)

△新入生事前登校

※中止・延期行事等…○入学式(中止)、○始業式(延期)、○健康診断(延期)

○歯科検診(延期)

【5月】○登校日(1年5/13、2年5/14、3年5/15)

○始業式(5月25日)

※中止・行事等…○校外研修(中止)、○3年進路説明会(延期)

【6月】○3年生進路説明会(6月5日)

※中止・延期行事等…○球技大会(中止)、○生徒会役員選挙(延期、方法変更)

【7月】○2年生進学・就職ガイダンス(7月3日)

○健康診断(7月9日/全学年)

△3年生進路懇談会(7月9日～17日)

○校内進学展(7月14日/全学年対象)

○高等学校スクーリングⅠ〔リモート形式〕(7月20日～27日)

※中止・延期行事等…○2年生自然宿泊研修(中止) ○保育園実習(中止)

○介護ボランティア活動(中止)

- 【8月】 ○歯科検診(8月24日)
※中止・延期行事等…□第1回体験入学(中止)
- 【9月】 □第2回体験入学(9月5日)
△三者懇談会(9月23日～28日)
○大掃除／地域清掃ボランティア(9月29日)
※中止・延期行事等…上級学校訪問(中止)
- 【10月】 □高等専修学校展〔対中学生〕(10月3日)
□高等課程合同説明会〔対中学校教員〕(10月14日)
□第3回体験入学(10月17日)
○2年生キャリア講座(10月30日)
※中止・延期行事等…文化祭(延期)
- 【11月】 ○1年生キャリア講座(11月6日)
□第4回体験入学(11月14日)
○校内進学・進学資金説明会(11月17日)
□第5回体験入学(11月28日)
※中止・延期行事等…○体育大会(中止)
- 【12月】 ○芸術鑑賞会〔ミュージカル鑑賞〕(12月2日)
□第6回体験入学(12月5日)
○生徒会特別行事〔文化祭代替行事〕(12月11日)
□学校説明会(12月12日)
○高等学校スクーリングⅡ〔実地形式〕(12月14日～17日)
○大掃除／地域清掃ボランティア(12月18日)
※中止・延期行事等…○1年生普通救命講習(中止)
- 【1月】 ○始業式／避難訓練(1月7日)
□入試事前相談〔対中学校教員〕(1月12日～14日)
○2年生校外進学展(1月15日)
□推薦入試(1月27日)
- 【2月】 □一般入試(2月3日)
○3年生大掃除(2月5日)
○2年生修学旅行〔伊勢志摩、1泊2日短縮実施〕(2月18、19日)
- 【3月】 ○卒業証書授与式〔校内実施〕(3月5日)
○新入生制服採寸〔推薦合格者〕(3月6日)
△三者懇談会〔任意〕(3月15日～17日)
○修了式／大掃除／地域ボランティア清掃(3月18日)
○新入生制服採寸〔一般合格者〕(3月19日)
□中学1・2年対象学校説明会(3月26日)

<専門課程 調理師専科>

① テーブルマナー講習会

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、6月に予定していた西洋料理のテーブルマナー講習会は1月に延期をして実施した。ホテル側に広い会場を準備して頂いたり、席が密にならないように、また向かい合わせにならないように配置し、換気にも気を配って頂いたため、無事終了することが出来た。しかし、日本料理のマナー講習は残念ながら中止とし、体験することが出来なかった。

② 店舗販売運営

2年生の後期の授業で販売実習を実施した。総合調理実習の時間にお弁当の販売に取り組んだが、コロナ禍で一般への販売は断念し、学内販売を行った。販売数量がなかなか伸びなかったが、12回の販売で519食を売り上げ、2年生の学生の数を含めても1回平均が56個という状況で、目標の100食には程遠い結果に終わった。初年度のこの経験を次年度に活かせるよう改善を図りたい。

③ 卒業作品展

今年度は中止とし、実施できなかった。

④ 製菓衛生師試験（国家試験）対策

通信課程における授業内での学習段階では、多数の学生が合格ラインに達していなかったが、担当教員の粘り強い課外授業での指導により、関西広域、愛知、三重と渡って全員合格を達成することが出来た。

<専門課程 製菓製パン本科>

・資格取得、検定試験合格等の実績

国家試験対策の強化（教科目授業の充実、リカレント講習、課外授業）

本学科は、国家資格である製菓衛生師の在学中取得に有効なカリキュラムを編成しているが、平常時より、授業教科目に対する学生の理解度を計るための定期小テストとその結果に応じた反復補習（課外）を徹底することで基礎力養成を支援し、8月には国家試験対策講座を開講して国家試験対策の強化に努めている。また、愛知県のみならず、他府県実施の国家試験も積極的に受験することを勧め、希望者には個別指導も実施することで合格率100%を達成した。

・キャリア教育への取組状況

○インターンシップ（校外研修実習）

2年生の5月頃からの本格的に就職活動に備え、製造現場や販売現場での実習（労働体験）を行うことで、より就職活動への意識を高め、就業先選択のミスマッチを無くすことを目的に実施する予定であったが、本年度は新型コロナウイルス感染症対策により実施を見送り、代わりに学内販売実習を行うことで補填した。

○卒業生懇談会

製菓製パン業界での活躍を目指して入学する学生は、活躍「したい」業界は明確でも、「具体的な将来像」を明確にできないまま時間が経過してしまうことも少なくない。

本学科は、業界の諸先輩方の話を聞き質問できる機会を積極的に作り将来像の具現化を進めている。また、卒業生によって構成されるユマニテクススイーツ同窓会総会が本校を会場として実施されていることを機に、卒業生たちに様々な質問をできる機会を設けている。学外研修として、一般社団法人愛知県洋菓子協会主催の学生向け研修会への参加、インターンシッ

ブを2年次の4月に実施することによる就職活動への意識付けなど、卒業生の活躍こそが在校生への見本や目標になるということを重要な点と位置付けている。学生の長期休業期間には、実店舗見学（レポート提出）を課題として設定し、学生同士で話し合い、クラス担任の教員と共有しながら、学生の将来像と目的の具現化に対する促進支援に努めた。

・実習・実技等の取組状況

一朝一夕には習得できないということを念頭に諦めない教育に注力した。また、本年度より開始したスキルアップ実習により、基礎技術の反復練習を行うことができスキルレベルの底上げに成功したといえる。数年前より掲げてきた技術習得目標の達成度は年々向上している。

・学校行事への取組状況

○「保護者感謝会」

1年間の集大成として、日頃より支え続けている保護者への披露と感謝をこめて実施。2年生は自らの保護者と1年生に対して製品を提供し、保護者への感謝と在学生へのエールを込めて取り組んだ。

社会人として活躍をするそのスタートを切る前に、これまで支えて頂いた保護者を始めとす
るご家族の方々に感謝の気持ちを伝える機会として実施。

本学の理念である「確かな技術」を製品に込め、「豊かな人間性」を感謝の気持ち、ありがと
うの言葉を伝えられる人間的に成長した学生の育成を狙いとしている。

※他の行事においては新型コロナウイルス感染症対策を講じた結果、中止となった。

・その他

○最優秀若手ブーランジェコンクール

22歳以下の若手パン職人を対象に行われる大会に参加。学生の部ではなく、年齢により区切
られる大会であるため、学生で本選に出場を果たすのは極めて困難。本学科の学生は過去2
回とも本選(全国大会)に出場を果たしている。今年度は予選に3名が挑戦し、本選に2名が
残り、健闘した。

(5) 職業実践専門課程の実施状況について

<実施状況>

自己点検・自己評価 令和2年10月1日

学校関係者評価委員会 令和3年3月18日

教育課程編成委員会 令和2年11月19日、令和3年2月19日

※いずれも専門課程2学科合同開催として

2. 目標達成計画及び重点課題の達成状況

(1) 数値目標結果

<高等課程 総合学科>

①入学定員 80 名の実現

【目標 1】受験者総数 110 名以上（専願 70 名以上、併願 40 名以上）を目標値とする。

【結果】受験者総数 109 名受験（専願 83 名、併願 26 名）。併願受験者は目標値を下回ったが専願受験者は目標を大幅にクリアして、結果として専願生徒のみで入学予定者は 82 名(1 名不合格)に達し、目標を達成することができた。併願生徒の歩留まりは 3 割強となり、最終的には 90 名の入学者となった。

【目標 2】男子生徒の入学比率 10%以上の実現(現状 7%弱)

【結果】全体で 19 名の受験があり、専願生徒のみで 12 名が入学予定となり目標を達成した。さらに併願生徒からの数名の入学があり、最終的に男子比率が 15.6%となった

②退学率 5%以内の実現

【目標】退学者数 1 年次 5 名以内、2 年次 3 名以内、3 年次 0 名を目標とする。

【結果】1 年次 4 名、2 年次 4 名、3 年次 1 名、計 9 名となった。本年度開始時の在籍生徒 177 名に対し退学率は 5.1%となり、目標には少し及ばなかった。

③生徒実員 190 名の実現（次年度生徒募集結果を踏まえて）を目標として

【結果】・入学者 90 名、2 年進級 64 名、3 年進級 54 名を加え、208 名を達成。

④進路：進学率 70%、就職率 30%、学内進学率 30%以上(本年度においては 12 名以上)を、就職内定率 80%を目標として

【結果】進学率 64%(32 名)、就職率 36%(18 名)の結果となった。

学内進学率 44%(14 名)、就職内定率 100%(希望者に対して)

・進学の比率については目標と差異はあるが、進学者における学内進学率については 44%と目標を大きく上回った。就職内定率についても 100%と目標を大きく上回った。

<専門課程 調理師専科>

①入学者数 75%以上を目指す

3 年目の募集でまだまだ届かない数字だと思っていたが、75%を上回る入学者数になった。コロナ禍でオープンキャンパスやガイダンスの実施が出来ず、受験生との接触がない中で、インスタライブや YouTube 動画を作製したりしてあの手この手で頑張ってきた結果だと思う。次年度は、更に上を目指して努力する。

②退学率 0%を目指す

初年度入学の 1 期生は、13 人の入学で 13 人を卒業させることが出来た。1 年次は様々な要因で、脱落者を出すような危機的状況もあったが、何とか乗り越えられた。しかし、2 期生においては、コロナ禍で 4 月からの順調なスタートが切れなかった事も影響し、夏までに 1 名の退学者を出してしまった。

③調理師免許・製菓衛生師免許の取得 100%を目指す（2020 年度以降）

1 期生においては、調理師免許・製菓衛生師免許とも全員取得が達成出来た。

④卒業後 3 年以内の転業率 20%以下へ（2023 年度以降）

コロナ禍で採用を見合わせる企業が多く、卒業後 3 年以内での転職はあるかも知れないが、1 期生には他業種へ転業する者はいないであろうと期待する。

<専門課程 製菓製パン本科>

項目/担当	目標/結果
学生募集	目標:入学者数:80名 結果:入学者数83名(達成率103.8%)
1学年主任 1年Aクラス担任	目標:製菓衛生師試験合格率100% 結果:製菓衛生師試験合格率100%(71/71名)
教務担当 1年Aクラス副担任	目標:学年退学者0名 結果:学年退学者4名 進級率約95.2%
1年Bクラス担任	目標:担任クラス退学者0名、令和3年度入学者数80名 結果:担任クラス退学者2名、令和3年度入学者数83名
2年Aクラス担任	目標:進路決定率100% 結果:進路決定率約93.0%(66名/71名)
2学年主任 2年Bクラス担任	目標:進路決定率100%、学年退学率0% 結果:進路決定率約94.4%(67名/71名)、学年退学率0%(0/71名)
教務補佐	目標:担当授業の再試験率5%以下 結果:担当授業の再試験率5%
実習助手	目標:製菓実習試験 再試験対象者0名(学年) 結果:製菓実習試験 再試験対象者1名(学年)
	目標:担当科目欠席率5%以内 結果:担当科目欠席率4.5%
	目標:商業ラッピング検定3級合格率100%(2学年) 結果:商業ラッピング検定3級合格率約93.0%(63/71名)
	目標:1学年進級率100%(在校生に対して) 結果:1学年進級率100%

(2) 目標達成計画/重点課題の実施状況・結果

<高等課程 総合学科>

①新校名の認知拡大、学内進学等のアピール、訪問校数(250校以上)の増加

前年度までは校名変更により、旧校名時代から継続する需要の喪失と学習内容が変更したかのような誤解が生じている反応もわずかながら見受けられたが、中学校訪問の質的向上に取り組むことにより、新校名の認知が高まると同時に、「総合学科」であること、「男女共学」となったこと、「学内進学」を推進していることなども浸透し、受験者、入学予定者の大幅な増加につながることができたと考えている。ただし目標としていた訪問校数250校以上については、コロナ禍により訪問時期や回数を慎重に制御せざるを得ず、184校に留まった。次年度は収束状況を見据えながら目標校数に近づけさらに中学校へのアピールを量的にも強めたい。

②体験入学の内容の改善、参加者の増加

コロナ禍の影響で第1回を中止とせざるを得ず開催回数が減ったこと、参加申し込みにも中学校側、生徒側に例年になく慎重さが見られたことなどにより、参加者数は目標を達成できなかった(目標300名、参加者258名)。一方で保護者の参加率の飛躍的な増加(84%、218名)、参加者アンケートにおける早い段階からの第1希望率の増加などから、例年以上に本校に的を絞っ

た参加者が多く、それらが最終的に受験者の増加、入学予定者の増加にはつながったと考えられる。実施内容については立案の段階から全教員が関わるようにし、これまでになく体験実習を加えたり、学校説明にも多くの教員がより主体的な姿勢で関わることができたので、それらも募集結果の向上に寄与したと思う。また、本年度末には本校初の取り組みとして、中学1・2年対象の学校説明会も実施し、早い段階からのアピールに努めており、次年度も3年生対象のものと並行して実施する予定であり、連続性のある広報活動を強めていく予定である。

③退学率の抑制

本年度退学率は5.1%となり、結果として数値目標にも掲げた「5%以内」には及ばなかったものの、それに近い数値で抑えることができた。

本年度はコロナ禍の影響により始業が5月下旬にまでずれ込み、生徒の学校生活への影響が懸念されたが、特に前期においてはむしろ例年以上に欠席率、遅刻率が少なく、後期に多少の崩れが見られたもの、課題を抱える生徒への対応に的を絞ってより適切かつ丁寧に行えたことが生徒の学習意欲の維持、学校生活の安定につながったと考えられる。個々の生徒の情報や指導方針の教員間での共有も例年以上に丁寧に行えたと思う。

④学内上級学校との連携と学内進学率の向上

学内上級学校のオープンキャンパス参加の積極的促し、本校進学ガイダンスへの学内上級校の招へい、専門課程による特別実習の実施などにより、学内進学意識向上に年間を通じて務めた。結果として数値目標にも掲げた学内進学率30%以上を44%とすることができ、1・2年生の進路希望調査においてもこの結果と同等かそれ以上の数値を現状は獲得できている。また本校受験者動向においても、中学3年時点で学内進学を視野に入れた出願者が増加してきており、進路指導・募集広報活動の両面において結果が出始めている。同種他校への流出も最小限に抑えることができている。既存の取り組みに加え、さらに新たな取り組みを模索することでさらなる向上を図っていきたい。

⑤教員の資質向上のための研修機会の増加、内容の充実

コロナ禍の影響により、年度当初の教員の在宅勤務や始業の遅れによる授業や学校行事の実施の圧迫により十分な日程が確保できず、セミナー形式の研修の増加は図れなかったが、専門課程との合同による研修会を実施した。(文書作成講習、広報活動内容の共有など) また、課程の枠を超えた教員間の授業参観を実施し、授業技術の向上や日頃の学習活動内容の相互理解の向上に努めた。次年度はさらに計画的に機会を増やしたい。(研究授業の実施など)

<専門課程 調理師専科>

- ①学内での魅力のある授業には精力的に取り組んだが、興味を持つような行事やオープンキャンパスは実施出来ていない。学外での高校訪問や各種ガイダンスへの参加は、思うようにならなかった。
- ②個別面談を実施しての教員間での情報共有を図り、学生たちの悩みや問題の早期解決を目指すことに努めた。更に小集団での協調性を養い、進級・卒業を達成した。
- ③疑問やつまづきに対応できる体制を築くことは、時間や教員数から考えると難しい面もあるが、単位習得や国家試験合格に向けて努力をさせて達成した事で、自己に自信を持たせることが出来たと思われる。
- ④調理製菓の分野以外の他業種に転業してしまう可能性はないとは言えないが、業界の魅力ややり甲斐をしっかりと伝えてきたつもりである。

<専門課程 製菓製パン本科>

①退学者の防止（退学率の通減）

近年の学生は価値観や志向が多様化しており、画一的な指導では対応が不十分となるため、定期的に、状況に応じて「個別」面談を行い、一人ひとりの個性を伸ばす指導を重視している。また、学生の進路選択は、保護者の意向が反映される要素もあり、特に「就業先」は、学生と保護者との意向が異なるケースが増えてきているため、保護者との「個別」面談、就業先の業界理解を促進し、学生にとってより良い進路決定に繋がるように取り組んでいる。

②将来像と目的の具現化

製菓製パン業界での活躍を目指して入学する学生は、活躍「したい」業界は明確でも、「具体的な将来像」を明確にできないまま時間が経過してしまうことも少なくない。

本学科は、業界の諸先輩方の話を聞き質問できる機会を積極的に作り将来像の具現化を進めている。また、卒業生によって構成されるユマニテクススイーツ同窓会総会が本校を会場として実施されていることを機に、卒業生たちに様々な質問をできる機会を設けている。学外研修として、一般社団法人愛知県洋菓子協会主催の学生向け研修会への参加、インターンシップを2年次の5月に実施することによる就職活動への意識付けなど、卒業生の活躍こそが在校生への見本や目標になるということを重要な点と位置付けている。学生の長期休業期間には、実店舗見学（レポート提出）を課題として設定し、学生同士で話し合い、クラス担任の教員と共有しながら、学生の将来像と目的の具現化に対する促進支援に努めている。

以上

名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校

校長 服部 正巳

事業報告にあたって

学校法人大橋学園は、昭和14年「ツルー洋裁学院」として開校し、「精和学園文化・ファッション専門学校(のち精和総合文化専門学校)として、女子の社会的自立のための職業教育を基盤として地域社会の発展に寄与してきた精和学園を引き継ぎ、現理事長である大橋正行が新たに「地域を支える次世代を社会に送り出す」を建学の精神として、平成17年(あいち大橋学園)に設置した名古屋ユマニテク歯科医療専門学校 歯科衛生学科(現名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校)は、開校から16年が経過し、地域職業教育の一端を担っている。

また、建学の精神と「豊かな人間性と確かな技術」という教育理念に基づき、より高いレベルの「技術教育」と「人間教育」に邁進している。

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大により対面授業が困難になり、講義形式の授業を遠隔授業にて実施した。手探り状態ではあったが、無事にカリキュラムを終える事が出来た。また、継続的な課題であった退学率については、新しい取り組みである入学前プログラム、基礎学力リサーチを実施し、指導が必要な学生に対し早期に対応する事で、大幅に低減する事が出来た。学生募集面においても、令和3年度入学生の入学定員充足が出来た。今後も、教育の質・学生の質の向上、選ばれる学校を目指し邁進していきたい。

I. 基本方針について

1. 教育方針

- ① 歯科衛生をめぐる多様なニーズが期待されている中、基礎科目を基盤として歯科口腔衛生に関する高度な専門知識と技術を習得させる教育を目指す。
- ② 社会の動向と時代の要請に対応出来る実践力と、人の心の痛みがわかる豊かな人間性と社会性を備えもつ医療人の育成を目指す。
- ③ 他の医療職種と連携して、地域における歯科保健医療の向上に貢献できる歯科衛生士の育成を目指す。

2. 教育目的

- ① 専門的知識と技術及び科学的な思考力を統合した実践力の育成
- ② 高い使命感と倫理観を持った人間性豊かな医療人の育成
- ③ 医療人としてのコミュニケーション能力の育成

3. 主な教育・研究の概要

(1) 入学者の受入れに関する方針 (アドミッションポリシー/求める人物像)

- ① 人や社会、医療に関心を持っている人
- ② 歯科衛生士を目指す上で入学前から高いモチベーションを備え、入学後にも探究心を持ち、主体的かつ柔軟な思考で取り組むことができる人

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

歯科衛生士学校養成所指定規則に基づき、体系的に学修できるよう基礎分野・専門基礎分野・専門分野・選択必須分野を中心として、講義・実習(学内・学外)科目の配置を行っている。

本校は「職業実践専門課程」の認定を受けており、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、企業等と連携して、実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行う。主体的な問題解決能力、人間・社会に対する理解やコミュニケーション能力を養えるように科目を配置している。

授業計画（シラバス）については、授業概要、授業終了時の到達目標、授業計画（毎回のテーマ及び内容）、評価方法、使用教科書・教材を記載しており、入学年度及び各進級年度に学生に配付し、積極的に活用するように指導している。

(3) 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

カリキュラムポリシーに沿って設定した全ての科目を修得し、学則及び卒業判定規程にある下記の卒業要件を満たしたものに専門士(医療専門士)を授与する。

- ・ 歯科衛生士業務を行うにふさわしい知識、技術及び人格を備えていること。
- ・ 本校の定める全ての授業科目、及び実習の出席率を満たしていること。
- ・ 授業料等学納金が完納されていること。
- ・ 卒業試験に合格していること。

4. 教職員の行動指針

- ・ 学校力 … 教職員が一丸となり、学生を指導支援する。
- ・ 教師力 … 専門性を発揮し、分かる・身につく授業をする。
- ・ 人間力 … 学生の豊かな人間性と社会性を養う。

II. 令和2年度 事業報告

1. 学校運営と教育活動の取り組み

(1) 設置学科の概要

学科名	学年	学級数	定員	5/1 時点 学生数	3/31 時点 学生数	備考
歯科衛生学科	1 年	3	120 人	125 人	119 人	
	2 年	3	120 人	102 人	100 人	休学者 3 名含む
	3 年	2	80 人	71 人	69 人	
合計		8	340 人	298 人	288 人	

(2) 令和2年度卒業生の状況

令和3年3月31日現在

学科名	卒業生	国家試験合格見込者	専門分野就業者予定	備考
歯科衛生学科	69 人	67 人 (97.1%)	69 人 (100%)	
合計	69 人	67 人 (97.1%)	69 人 (100%)	

(3) 教育活動の実施状況

・資格取得、検定試験合格等の実績

初年度教育から基礎学習と並行して、国家試験に準じた問題も取り入れた。

3年生春からは国家試験対策として、模擬試験を計8回実施、11月からは総合基礎講座を受け、その後は、学習低迷者の洗い出し、個別指導、学生間のグループワーク等を繰り返し、学生意識の強化と成績アップを図った。

・キャリア教育への取組状況

入学前の取り組みとして「入学前プログラム」を受講させた。多くの入学者が受講し、入学前に学習習慣を身につけること、歯科衛生士についての理解を目的として行った。

このプログラムの実施効果として、例年より入学後の学修に取り組む姿勢が向上したと感じ、引き続き、入学前プログラムを実施していく予定である。

・実習・実技等の取組状況

学内実習・実技については、各単元の到達目標・行動目標を学生に明示し、事前学習・授業・振り返りを学生が能動的に思考し、技術習得の向上を目指した。項目ごとのチェック習得表を活用し、教員や他の学生からの他者評価と自己評価を照らし合わせ、技能の向上を目指した。

学外実習については、2年次秋期～冬期、3年次春期～秋期と実施している。実習指導者による評価を実施し、評価・コメントを学生にフィードバックし、次回の実習課題として指導した。

・学生の生活支援

4・5月の期間は、書面郵送や学生アプリ(Myid)を活用して、学校や個々のクラスとして学生とコミュニケーションを図った。各学年・担任による学生個人面談を対面登校開始後の6月より実施した。学校生活や学習状況の把握に加え、コロナ渦での生活を踏まえて健康管理、学校外のアルバイト状況等適宜に指導した。

・学校行事への取組状況

入学式 … 学外会場での実施は中止し、遠隔(オンライン)で校長より「入学祝いの詞」を伝えた。

春のレクリエーション(学外活動) … 1・2年生は中止となる。

変わりに、秋にテーブルマナー研修を実施した。

春のレクリエーション(学外研修) … 3年生は時期を変更して、秋に国家試験祈願と歯科関連工場見学を実施した。

スポーツレクリエーション … 全学年を対象に体育館で実施予定であったが、中止となる。

海外研修(アメリカ・ハワイ州) … 希望者を対象に実施予定であったが、渡航困難により中止となる。

卒業式 … 学校校舎にて、卒業生と教職員で実施した。

(4) 職業実践専門課程の実施状況について

教育課程編成委員会

第1回目 令和2年11月19日(木)実施

第2回目 令和3年3月18日(木)実施

学校関係者評価委員会

第1回目 令和3年3月18日(木)実施

関係者評価委員会、教育課程編成委員会等の実施記録（議事録等）添付（該当部門のみ）
自己点検評価

2. 目標達成計画及び重点課題の達成状況

(1) 数値目標結果

- ・ 歯科衛生士国家試験の100% (71名中71名) 合格
卒業生全員の合格を目指す。
→ 休学・退学者がいたため、現役受験者は69名の受験となった。国家試験の問題傾向が変わり、67名の合格者となった。合格率は97.1%。
- ・ 退学率を5%以下(14名以下)へ
1年次の退学者の低減が重要と捉えてはいるが、更に2, 3年次の退学者を出さないように支援することで低減を目指す。
→ 入学前プログラムなどを実施した効果もあり、1年次の退学率を大幅に下げることが出来た。
1年生：6名、2年生：2名、3年生：2名の計10名となり、退学率は3.5%。
- ・ 入学定員120名充足
学びたい学校として、選ばれることへの外部発信を積極的に行っていく。
→ 計画通り広報募集を進め、令和3年度の入学定員を充足させることが出来た。

(2) 目標達成計画／重点課題の実施状況・結果

- ・ 国家試験対策を春より実施し、学生意識の強化と成績アップを図る。
→ 学習面で難しい学生を、大幅に成績をアップさせることが出来た。
- ・ 退学者低減に向け、学生への早期個別指導(学習面及び生活面)を行う。
具体的には、入学前に学習習慣をつけるための入学プログラムを実施する。
入学後すぐに基礎学力リサーチを実施し、結果を数値化し早期に指導すべき学生の洗い出しを行う。また、担任及び学年主任と連携し、学生の小さな変化へ早期に対応する。
→ 1年次の退学率を目標数値まで下げることが出来た。
- ・ 教員の自己評価と教員間の情報の共有を図る。
→ 適宜、面談行い指導を行い、朝礼等で情報共有をしっかりと行った。
- ・ 各研修会・学会へ参加し、教員の研鑽を図る。
→ コロナ禍で対面の研修が中止になったが、オンラインでの実施の研修に関しては参加し、研鑽を積み増した。
- ・ 学生教育の充実を考慮した基礎実習室の有効活用を行う。
→ 5階実習室の設備を活かし、特に保健指導の授業に活用した。
- ・ 臨床の実際、現場等の第一線の関係者による授業を取り入れるなど、実践的な職業教育を心がけていく。
→ 歯科以外にも、臨床で活躍しているコメディカルの講師を招いて、授業を実施した。
- ・ 意欲を持ち目標意識が明確な学生を確保する為のガイダンス・オープンキャンパスを実施する。
→ 令和3年度入学生のレベルを上げるだけでなく、定員を充足した。

以上

事業報告にあたって

昨年度末からコロナ感染防止の緊急対応を迫られ、様々な混乱が生じる中で、4・5月の休業期間中は課題対応の遠隔授業等、変則的な授業方法と時間割を策定せざるを得なかった。本学に於いては学修課題を双方向的に実施するなかで、教育の質を保障できたと考えている。また、多くの高等教育機関が全面オンライン授業という中で、6月から、対面授業を敢行した。感染防止のために取りうる対策を十二分に徹底し、分散登校の形をとった。この間においては教学課を中心とし、全学が一体となって課題対応をすることができ、後期は平常の全面対面授業を実施することができた。また、学生のみならず、教職員に感染者を一人も出すことがなかったことは幸いであった。

教育理念の進化・深化をめざして、昨年度から本学の「らしさ」を明文化するために研修を実施。「豊かな人間性と確かな技術」という教育理念をさらに具体化し、自らの日常的な行動に落とし込めるものを探究した。しかしながら、具体的な行動目標を共有できるところまでは至っていない。引き続き、来年度もコロナ禍における「豊かな人間性と確かな技術」という教育理念を探究していく。

教学マネジメントについては「大学がその教育目的を達成するために行う管理運営」の謂いであるが、大学の内部質保証の確立にも密接に関わる重要な営みである。到来している予測困難な時代にあって、学生たちは卒業後も含めて常に学び続けていかなければならない。学生自身が目標を明確に意識しつつ主体的に学修に取り組むこと、その成果を自ら適切に評価し、さらに必要な学びに踏み出していく自律的な学修者となることが求められている。本学においては専任教員を中心にコロナ禍においても対話的で協同的な学びを実現する授業実践が徐々に展開されつつある。また、ほとんどの授業ではリフレクションシートを活用し、授業の振り返りを行っている。次年度はさらに充実したものにしていきたい。保育者の養成施設として、人材を輩出することは当然のことながら、自律した主体的な学修者として、生涯にわたって学び続け、成長していける保育者を育成していくことが課題としてあげられる。

経営マネジメントについては事務局組織の体制整備と教員構成の再編を手掛けた。事務局員の削減、教員構成の見直しを実施し、次年度に向けて、経営安定の足掛かりとなるように計画した。仕事の一つの部門に偏らないように、課を超えて全員が相互支援出来るような仕組み整え、個々の事務職員の姿勢を喚起した。事務局長体制を事務長・事務次長という体制に改変し、教職協働の組織体制を編成することができた。

定員充足の目標については目標の80名に対して、離職者訓練生の5名を含めて61名という結果であった。コロナ禍において、十分な広報活動が行えなかったという事情はあるものの、惨敗であった。その原因についてはオープンキャンパスへの動員数が減少したこと。従って本学の強みをアピールできなかったこと。本学に対する誤った情報が流されたことなどがあげられる。総じていえば、根本的に本学に対する信頼度がまだまだであることの証左であると認識している。信頼度を上げるには、すべての教育実践において「さすが、ユマニテク短期大学」と言われるような実績を積む以外にない。また、正しい情報を確実に高校生や保護者も含めた地域にあらゆる手段を通じて伝え続ける必要がある。

離職者訓練生の募集については5名定員のところに10名の応募があった。また、本年度に入学した離職者訓練生の学修姿勢が極めて優良なことから、本学の教育の質を高める効果をあげていることを付け加えたい。

キャリア支援については、丁寧な個別支援を通して、地域の施設から信頼を得ている。コロナ禍において、外部の就職説明会がほとんど中止のなか、7月に本学独自の「学内保育セミナー」と称して、30余りの施設に来ていただき、ブース形式の説明会を開催することができた。1、2年生全員が参加し、またとないキャリア支援の場とすることができた。また、公務員試験合格者も着実に出てきている。所在地である四日市市にも公務員合格者が出た。

今後ともご指導とご支援を賜りたい。詳細については以下の通りである。

1. 建学の精神

「地域を支える次世代を社会に送り出す」

2. 教育理念

「豊かな人間性と確かな技術」

3. めざす人間像

「豊かな人間性」を身につけていること。

「確かな技術を」を身につけていること。

4. 3つのポリシー

(1) ディプロマポリシー

現場に即した保育者になるため、教育課程（教養科目および専門教育科目）の学修を通して科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。

卒業認定の際に獲得していることを求める学修成果は次のとおりである。

- ①乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。
- ②子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。
- ③子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。

(2) カリキュラム・ポリシー

○教養科目

「地域を支える次世代を社会に送り出す」という建学の精神を深めるための科目や、自らの人間性を深めたり世界観を広げたりできるように科目を設置している。

- ①人間性や職業観に関する科目
「心理学」「キャリアデザイン」等
- ②言語や情報に関する科目
「外国語コミュニケーション」「情報処理」等
- ③健康と保健体育に関する科目
「人間と健康」「スポーツ・レクリエーション実技」

○専門教育科目

教育理念である「豊かな人間性と確かな技術」を体現する者として、自ら考え、主体的に行動できる保育者を育成するため、理論と実践をバランス良く学ぶことができるように以下の科目を設置している。

- ①保育や幼児教育の目的や子どもを取り巻く社会の現状について学ぶ科目
「保育内容総論」「子ども家庭福祉」等
- ②保育や幼児教育の対象となる子どもと家族について理解を深める科目
「子ども家庭支援論」「障がい児保育」等
- ③保育や幼児教育を実践するための方法や技術を修得する科目
「保育指導法」「教育相談」等
- ④保育や幼児教育をめぐる諸問題について倫理的に考え表現する方法を修得する科目
「保育・教職実践演習」「ゼミナール」等
- ⑤保育や幼児教育について現場で他者とコミュニケーションをとりながら実践的に学ぶ科目
「保育実習」「幼稚園教育実習」等

(3) アドミッション・ポリシー

本学は、建学の精神に定める人材を育成するために、本学での学修に対する目的や意欲をもち、高等学校までの学習及び経験を通じて基礎的な知識を修得し、身近な問題について自ら考え、その結果を表現できる力を身につけて入学してくるよう、下記のことを求める。

このような入学者を適正に選抜するために、多様な選抜方法を実施する。

- ◎高等学校の教育課程を幅広く修得している。
- ◎自らの意思を明確に表現し、他者との円滑なコミュニケーションを図ることができる。
- ◎学びたい学科で学修した知識・技能や態度を、地域社会で活かそうと考え、将来、保育者として従事したいという強靱な目的意識をもっている。
- ◎自ら主体的に課題設定が可能で、その課題に前向きかつ持続的に取り組んでいこうという意欲を入学前からもっている。
- ◎高等学校までに、部活動、ボランティア活動、資格・検定の取得等に、積極的に取り組んだ経験がある。

5. 学生在籍数

学科名	学年	学級数	定員	5/1 時点 学生数	3/31 時点 学生数	備考
幼児保育学科	1 年	2	100 人	65 人	58 人	
	2 年	2	100 人	59 人	59 人	
合計		4	200 人	124 人	117 人	

6. 三重县委託事業採択（受託事業費 4,999,999 円）

- ・放課後児童支援員認定資格研修

四日市会場：10月4日～11月22日 計4回 109人受講

津会場：9月27日～11月8日 計4回 95人受講

名張会場：10月11日～11月15日 計4回 36人受講

・放課後児童支援初任者研修

伊勢会場 : 10月13日 28人受講

四日市会場 : 10月20日 55人受講

・放課後児童支援資質向上研修

伊勢会場 : 10月22日 52人受講

四日市会場 : 11月5日 66人受講

・子育て支援員研修

四日市会場 : 10月10日～12月 35人受講

7. 三重県委託訓練生受入 (受託事業費 5,940,000円)

- ・保育士養成科生徒として5人の受入

8. 監事監査

<第1回>

日時: 令和2年9月11日(金) 13:30～15:00

立会者: 監事 矢野 範子

学務部次長 黒田 貴司

総務課 和田 実名子

応対者: 杉本、北村、長谷川(記録)

- 内容:
1. 学生生活に関する状況について
 2. 教授会の開催日数、教授会議事録・稟議書の確認について
 3. コロナ感染拡大による前期授業の実態について
 4. 学生意見箱に投函された要望事項の確認と実行の有無
 5. 学生の授業料延納、滞納、コロナの影響について

<第2回>

日時: 令和3年1月19日(火) 14:00～16:00

立会者: 監事 島岡 雅之

学務部次長 黒田 貴司

総務課 和田 実名子

応対者: 杉本、山本、田村、長谷川(記録)

- 内容:
1. 学生募集や就職状況について
 2. 教授会、運営委員会等の議事録や審議事項の確認、稟議書の確認について
 3. 退学者、授業料延納等について
 4. コロナの影響について
 5. 教授会への出席

9. 監査室監査

<第1回>

日 時：令和2年9月2日 9:30~12:00

監査対応者：監査室長 藤井 信雄
学務部次長 黒田 貴司
総務課 和田 実名子

応 対 者：杉本、北村、西田、長谷川（記録）

<監査目的及び評価>

学校会計簿外の「学生会費」、「同窓会費」、「教職員会費」、「女子バレーボール部決算」について、監査が行われた。決算書等を確認し、適正に運用されているとの評価を得た。

<第2回>

日 時：令和3年1月13日 10:00~12:00

監査対応者：監査室長 藤井 信雄
学務部次長 黒田 貴司
総務課 和田 実名子

応 対 者：鈴木学長、杉本、山本、長谷川（記録）

<監査目的及び評価>

「研究費規程」に基づき、各教員の研究費の執行状況について、昨年の是正報告書の内容が着実に履行されているか、今年度研究費から購入したものの現物確認や、管理方法について監査が行われた。昨年度の内部監査での指摘事項の改善が、今年度の計画書に基づき予算執行されているか確認された。藤井監査室長から教員の研究成果報告について、ホームページから研究内容を確認できるようになったが、研究成果の見える化、成果の著しい教員への増額の検討などを行っていくことができると良いのではないかと助言をいただいた。

10. 入試広報委員会(学生募集活動関連)

令和3年度生を迎えるための学生募集活動を、3月から入試広報課を中心に行った。入試広報委員会を17回(判定会議を含む)開催し、その決定に基づき高校訪問、校内・会場ガイダンス、オープンキャンパス、その他学生募集に尽力した。各活動詳細については以下の通り。

① 入試

- ・入試区分別では61名の入学者中、総合型選抜(旧AO入試)23名、学校推薦型選抜(指定校推薦入試)23名、公募制推薦入試2名)内部推薦進学6名、一般選抜2名、委託訓練生5名であった。
- ・地域別入学者数は下記表1の通りとなった。

【表1】

地域	市郡	入学者数
北勢	桑名、員弁、四日市、菟野	33
中勢	鈴鹿、亀山、津、松阪、多気	14
南勢	伊勢、志摩	7
伊賀	伊賀、名張	2
県外	愛知、奈良	5
	合計	61

また、男女別では男子 6 名（10%）、女子 55 名（90%）であった。

なお、61 名の入学者中、高校現役入学者は 56 名、既卒者は 5 名という結果であった。

② 上記 61 名中、奨学金・スポーツ奨励金等、本学独自の奨学金制度該当者は表 2 の通りである。

【表 2】

奨学金種別 入試別	一般奨学金			学園内奨学金	特別奨学金	特待生奨学金	スポーツ奨励金	遠隔地制度
	130,000 円	100,000 円	50,000 円	100,000 円	150,000 円	200,000 円	200,000 円	50,000 円
総合型選抜		4	5		4	1	1	1
指定校推薦	22					1	2	1
内部推薦進学				6				
一般					1			
小計(人)	22	4	5	6	5	2	3	2
合計(人)	44						5	

*この他内部推薦進学入試で受験した 6 名は、入学金 280,000 円と検定料 30,000 円の減免制度に該当。

*スポーツ奨励金 3 名、遠隔地サポート制度 2 名は奨学金と併せて受けている。

③ オープンキャンパス

【表 3】

開催日	開始	イベント名	出席数	(実人数)	高校3年	(実人数)	高校2年	(実人数)	高校1年	(実人数)	OCに参加し、出願がなかった3年生	出願率(実人数/出願者数(実人数-出願がなかった3年生))
2020/06/07	10:00	6/7オープンキャンパス(AM)	21	21	21	21	0	0	0	0	13	38%
2020/06/07	13:30	6/7オープンキャンパス(PM)	11	11	11	11	0	0	0	0	4	64%
2020/07/12	13:30	7/12オープンキャンパス	30	25	27	22	2	2	1	1	12	45%
2020/07/19	10:00	7/19オープンキャンパスAM	23	19	16	12	2	2	5	5	7	42%
2020/07/19	13:30	7/19オープンキャンパスPM	17	13	9	5	5	5	3	3	3	40%
2020/07/23	10:30	入試対策講座	27	9	26	9	1	0	0	0	4	56%
2020/08/18	13:30	8/18オープンキャンパス	15	13	7	5	5	5	3	3	3	40%
2020/08/21	10:00	8/21オープンキャンパスAM	10	8	8	6	1	1	1	1	5	17%
2020/08/21	13:30	8/21オープンキャンパスPM	8	5	5	3	0	0	3	2	3	0%
2020/09/12	13:30	9/12オープンキャンパス	20	14	11	5	9	9	0	0	2	60%
2020/09/22	10:30	第2回入試対策講座	1	1	1	1	0	0	0	0	0	100%
2020/10/11	13:30	10/11個別相談会	3	3	3	3	0	0	0	0	1	67%
2020/11/07	13:30	11/7個別相談会	3	1	0	0	3	1	0	0	0	
2020/12/06	13:30	12/6オープンキャンパス	19	12	5	3	14	9	0	0	1	67%
合計			208	155	150	106	42	13	16	15	58	48%

(※実人数54)

オープンキャンパスの実施回数は上記表 3 の通り全 7 回であった。コロナ禍のために前半の 3 月から 5 月までの企画が中止になってしまい、高校生に直接本学の良さをアピールする機会が減ってしまったのは大変残念であった。また、今年度は「個別相談会」を 2 回実施するとともに、入試対策講座を 2 回実施した。8 月は人数も多く集まり、出願にもつながったが、2 回目は時期が遅く低調に終わってしまった。

今年度は時期や実施方法も含めて出願者の増加につながるように検討を加えて実施する予定である。

1 月末日までの総動員人数は 208 名で昨年に比べて半減した。実施回数もさることながら、高校生や高校側もコロナ禍の感染を恐れて参加を控えたのが大きく影響した。

オープンキャンパスも個別相談会も、他大学・短大より比較的多く実施し、内容も充実したものになるように心掛けたが、本学にとってオープンキャンパスの参加が生命線であることを改めて思い知らさ

れた。高校3年生と既卒者の延べ人数は164名（実人数104名）であった。委託訓練生を除く入学予定者を54名とすると、オープンキャンパス参加者の51.9%が入学に結び付いたことになる。昨年は45.6%であり、単純には比較できないが約6%のポイント増になっていることを考えるとコロナ禍によるオープンキャンパス中止は非常に残念であった。来年度は高校訪問の頻度を増やすとともに、SNSを通じての参加者募集など、Z世代と言われる高校生たちの感性にフィットするような募集の仕方に改善したい。オープンキャンパスの内容そのものも満足感を高められる工夫をしていく。

今年度も、毎回、実施後に反省会を開いて改善事項を出し合った。

④ 会場・校内ガイダンス

2021年1月末現在で、会場ガイダンスは18回（昨年24回）、校内ガイダンスは69回（同92回）に参加した。延べ着席・参加人数は674名（昨年905名）を数えた。昨年とは状況が違うため比較がしにくいですが、とりわけ会場ガイダンスに関して着席者の平均値が高くなっており、徐々にユマニテク短期大学の認知度も進んできているのではないかと考えられる。

11. 教務委員会

① FD・SD研修会等の実施

令和2年8月11日、ユマニテク短期大学501講義室においてオンライン研修にて、愛知東邦大学経営学部教授・地域創造研究所長上條憲二氏を講師とし、「大学におけるブランディングのあり方について」をテーマに研修会を実施した。本学の教職員21名が参加した。

令和3年2月24日、ユマニテクプラザラザにて研修を行う。講師：学校法人西野学園 理事長前鼻英蔵氏、対象者：ユマニテク短期大学教職員（グループ内の教職員も参加）、目的：近年の教育界の変化を理解する。

② 教員免許状更新講習

第Ⅰ期令和2年7月13日(土)、7月20日(土)、8月3日(土)、8月17日(土)、8月24日(土)各日6時間計30時間、第Ⅱ期令和2年12月5日(土)、12月6日(日)、12月12日(土)、12月13日(日)、12月19日(土)各日6時間計30時間、ユマニテク短期大学内講義室にて本学の教員12名により教員免許状更新講習が行われた。コロナ感染症対策として各日80名の定員を40名に変更の上、募集を行った。受講料1講座6,000円。受講者は第Ⅰ期延べ237名、第Ⅱ期延べ193名計430名であった。事後評価結果では、「よい」「だいたいよい」の数値でほぼ100%の評価であった。

③ 学生による授業評価アンケートの実施

全講座・全学生を対象に前期・後期・集中授業終了時にGoogleアンケート方式による授業評価アンケートを実施した。各教員に集計結果を配布、結果に対する回答を得た。学生に対しても集計結果を公表した。

④ 学外実習の実施

コロナウイルスの感染症対策により、各学外実習は日程変更や日数短縮をして実施した。

実習名	変更前	変更後
保育実習Ⅰ(保育所)(概ね10日間) 1年55名	1年次後期2月	1月に変更

保育実習Ⅰ(施設)(概ね10日間) 2年55名	2年次前期8月末～9月	後期：10月20日～11月27日 五月雨式 (6日間に変更、4日間は学内演習)
保育実習Ⅱ(保育所)(概ね10日間) 2年54名	2年次後期10月	変更なし
保育実習Ⅲ(児童館等)(概ね10日間) 2年13名	2年次前期7月	後期：12月 (6日間に変更、4日間は学内演習)
幼稚園教育実習Ⅰ(5日間)1年55名	1年次後期10月	令和3年度の2年次へ変更
幼稚園教育実習Ⅱ(15日間)2年55名	2年次前期6月	後期：12月7日～18日(10日間に変更)

12. 学生支援委員会

月1回の学生支援委員会を開催して情報の共有につとめた。今年度はコロナウイルス感染の関係で予定していた行事が中止となった。

① 学生ハンドブック

学生ハンドブックは「学生便覧」「実習の手引き」の2部構成で作成した。学生ハンドブックは学生生活に必要なあらゆる情報を網羅した学生必携の冊子とし、オリエンテーションで学生、教職員(非常勤)へ配布した。シラバスはスマホから閲覧できるようにWebで公開した。

② 学外研修

実施日：令和2年9月25日(金)中止

③ 保護者会

実施日：令和2年6月13日(日)中止

④ 避難訓練

実施日：令和2年9月30日(水) 1年生基礎ゼミナールの時間内 2年生専門ゼミナールの時間内

保育者を目指す者として、あらゆる状況でも臨機応変に対応し、安全な非難行動をとれることを目的とした。当日は授業時間内に大きな地震が発生し津波の到達が予測されるとの想定で屋上への避難経路を確認し、避難訓練を実施した。コロナウイルス感染対策の為、今年度は全学的には実施せずにゼミナール毎での訓練とした。

⑤ 学生会主催行事

大学祭 実施日：令和2年11月21日(土)中止

⑥ その他

1) サークル活動

学生が行うサークル2団体(バスケットボール、バトミントン)は、各団体の感染対策を確認した上体育館で活動を行った。

2) 意見箱の設置

学生生活の満足度の向上を目的として、2階学生ホールに設置した意見箱には1件、授業に関する意見があり、教務委員会へ報告をした。

3) ウェルネスチェック

学生の健康状態等の把握を目的として、ウェルネスチェックを実施した。相談したいことがある学生はゼミナール担当教員へ報告をして面談を実施した。

4) ケガをした時の対応について

フローチャートを作成して学生には登下校中の交通事故も含めて、学校への報告体制を指導した。

5) コロナウイルス感染対策について

三重県からの行動指針が発表される度に、教職員を含む学生全員に感染対策防止徹底について指導した。それに伴い、学生ホール等の机や椅子の配置変更を行い密にならないように対策を講じた。

6) 卒業生寄贈品

3期卒業生寄贈品について、在学生の感染対策のために自動検温器と除菌機能付き加湿空気清浄器がよいのではないかと助言した。

7) 卒業アルバム作成の準備

8) 学生相談（休学者と保護者との面談を含む）

9) 卒業時のアンケートの実施

13. キャリア支援委員会

きめ細やかな進路支援に取り組むことを目的として、随時個人面談を実施し、進路活動の把握とゼミナール担当教員との情報交換をした。

また、進路支援の一環として、公務員希望の学生を対象とした採用試験対策講座を実施した。1次試験対策としては受験指導の実績のある外部講師に教養講座を依頼し、独学では難しい「問題の解き方」の講座を開催した。2次試験対策（面接、実技）として、受験自治体に特化した個別支援を実施、令和2年度は四日市市、朝日町、菰野町にそれぞれ採用された。

今年度はコロナウイルス感染の関係で保育士就職セミナーが中止となり、学内で「保育セミナー」を実施した。三重県私立保育連盟、四日市市保育連盟のご協力もあり約30法人の施設が参加、1年生、2年生の進路を考える貴重な機会となった。

①キャリアデザインⅠ（1年生後期）、キャリアデザインⅡ（2年生前期）

②個人面談

③履歴書の添削指導

④個人面接、集団討論等の指導

⑤求人票の送付 三重県内 278 事業所

⑥求人情報の整理

⑦保育セミナーの実施

⑧就職先への訪問に代わり電話での情報収集

⑨外部講師を招聘してのキャリア支援講座

⑩三重労働局、四日市職業安定所への進路状況の報告

⑪卒業生の就労相談

⑫中部学生就職連絡協議会「企業と学生に関する部会」担当校

1) 令和2年8月7日(金) 第1回オンライン ZOOM 会議

2) 令和2年8月27日(木) オンライン研修会

3) 令和2年10月26日(月) 第2回オンライン ZOOM 会議

4) 令和2年12月19日(土) オンライン模擬集団面接講座

5) 令和3年1月21日(木) 第3回オンライン ZOOM 会議

⑬三重学生就職連絡協議会主催の会議

1) 令和2年4月 三重県学生就職連絡協議会 第1回総会 書面（メール会議）

2) 令和2年12月18日(金) 三重県学生就職連絡協議会 第1回会議 プラザ洞津

3) 令和3年1月 三重県学生就職連絡協議会 第2回総会 書面（メール会議）

⑭三重県社会福祉協議会主催の会議

- 1) 令和2年4月9日(木) 令和2年度福祉・保育・看護の就職フェア開催に係る会議
- 2) 令和2年6月24日(水) 第1回保育士確保・保育所支援関係機関連携会議
- 3) 令和2年10月14日(水) 第2回保育士確保・保育所支援関係機関連携会議

<令和2年度 卒業生進路状況>

令和3年3月31日現在

区分	男子	女子	計
幼稚園	0	4	4
保育所及び幼保連携型認定こども園 (内公立保育所 嘱託等を含む)	2 (1)	34 (4)	36 (5)
地域型保育事業	0	4	4
児童福祉施設(児童養護施設等)	0	2	2
知的・身体障害者施設	0	1	1
児童福祉事業等(放課後デイ・学童保育所)	2	1	3
その他(一般企業等)	0	3	3
進学	0	0	0
一時的な仕事(アルバイト、未定者を含む)	0	6	6
計	4	55	59

14. 図書学術委員会

①学生の図書館利用促進

- ・新入生に対し、ゼミの授業を利用し図書館利用オリエンテーションを行った。
- ・7件の授業利用があった。
- ・季節等に合わせた特集や三重県立図書館等との連携企画展示を行った。
- ・新着本や特集、お知らせ等を学生ホールのモニターで紹介した。
- ・購入図書選定の際、利用者からのリクエストに応えた。
- ・今年度より「としょかんだより」を発行した(1~3号発行)。
- ・資料の探し方をサポートするパスファインダーを作成した。

※利用状況等

令和2年4月1日~令和3年3月31日

項目	令和2年度	備考
1 サービス対象者(学内)	170人	教職員:46名 学生:124名
2 開館日数	197日	土日祝、夏季・冬季学校休校日、蔵書点検、緊急事態宣言休講期間等 休館
3 入館者数	1,399人	
4 貸出冊数	769冊	
5 レファレンスサービス	29件	所蔵調査21、書誌調査8
6 文献複写依頼サービス	23件	NACSIS-ILL等利用
7 蔵書数	10,614冊	寄贈図書1,609、研究費図書631、視聴覚資料230、電子書籍565含む

8 受入れ冊数	714 冊	寄贈 174+研究費 133+購入図書 404+購入視聴覚資料 3
9 除籍数	0 冊	
10 雑誌、新聞数	43 種	新聞 2 紙 (研究費購入 2 種含む)

②ミニ企画展の開催

期間	テーマ	主催
7/30～12/25	いろいろな「三びきのこぶた」絵本	図書学術委員会 (資料提供：川勝泰介図書館長)

③紀要の発行

- ・幼児教育文化研究紀要第 6 号を発行した (2021.3)。
- ・ユマニテク短期大学紀要第 4 号を発行した (2021.3)。
- ・機関リポジトリへのアップも行う予定である。

④蔵書点検

9 月と 3 月に実施し、不明本は 0 冊であった。

15. 学生ポータル Glexa の活用

学生が利用できるポータルサイトを導入した。どこからでもパソコンやスマートフォンから学内情報や授業等の課題を確認することが出来るようになった。

16. 奨学金支給について

今年度の奨学金支出については、令和元年度に規程改定した奨学金規程に則り、下記の通り支出した。

奨学金種類	人数	金額	合計(円)
AO 入試	25	100,000	2,500,000
指定校推薦入試	15	100,000	1,500,000
内部推薦進学 入学金	7	280,000	1,960,000
内部推薦進学奨学金①	7	100,000	700,000
特別奨学金入学金半額減免	2	140,000	280,000
特別奨学金 授業料減免 (1 年 2 名、2 年 4 名)	6	150,000	900,000
特待生奨学金	2	200,000	400,000
特待生奨学金 2 年	2	200,000	400,000
内部推薦進学 検定料 (R2 年度生)	7	30,000	210,000
スポーツ奨励金 (1 年 5 名、2 年 2 名)	7	100,000	700,000
スポーツ奨励金 入学金減免	5	100,000	500,000
合 計			10,050,000

17. 各種団体へ加盟

各種団体に加盟し、それぞれが主催する総会、研修会、会議等に参加した。
次年度も継続して加盟予定である。

団体名	金額(円)
日本私立短期大学協会	179,000
中部地区私立短期大学協会	3,000
一般社団法人短期大学基準協会	130,000
一般社団法人全国保育士養成協議会	170,000
私立短期大学図書館協議会	15,000
三重県図書館協会	12,000
三重県学生就職連絡協議会	40,000
三重県私立大学高専協会	70,000
高等教育コンソーシアムみえ	45,000
三重県レクレーション協会	10,000
三重県私立大学入試・広報連絡協議会	20,000
日本レクリエーション協会 課程認定料	100,000
一般社団法人児童健全育成推進財団	20,000
児童厚生員養成課程連絡協議会	30,000
合計	844,000

18. 公開セミナー(みえアカデミックセミナー)

生涯教育活動の一環として、高等教育機関として三重県との連携事業でみえアカデミックセミナーを実施した。令和2年度は、平松准教授が講師を務めた。

会場には、大学パンフレットも設置し、社会人の学びの機会として本学を紹介した。

日 時：令和2年8月7日(金)

場 所：三重県文化会館レセプションルーム

参加者：26人

講演内容：令和2年4月から始まった高等教育の修学支援新制度創設に至るまで、経済的な困難を抱えた高校生や大学進学者の生活実態について、調査結果をもとに考える。

以上